

スカラップウォール 施工要領書

塗布・塗りタイプ

- この施工要領書をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- ご使用前に「ご使用上の注意事項」を必ずお読みください。

塗布・塗りタイプ 参考施工面積

ローラー施工

参考施工面積：20～30 m²/袋（塗厚 0.5 mm 以下、内容量 10 kg/袋）

- 砂骨材スリムローラー（極細目・細目・標準目・粗目）のいずれかを使用した場合です。
- ローラーのメーカーは『大塚刷毛製造株式会社』を推奨していますが、必ずしも『大塚刷毛製造株式会社』でなくとも構いません。
- 目が粗くなるにつれ塗り厚が増すので、塗り面積は少なくなります。
- 下地の状況や施工方法等により、1袋あたりの施工可能範囲は増減します。

吹き付け施工

参考施工面積：10～20 m²/袋

- スプレーガン等を用いて吹き付け塗装する場合、ローラー施工時よりも水を少し多く入れて溶き、吹き付けしやすい硬さに調整してください。
- 下地の状況や施工方法等により、1袋あたりの施工可能範囲は増減します。

塗布・塗りタイプ 適応下地

石膏ボード

目地・ビス穴等のパテ処理が必要になります。シーラーなどの下地処理は必要はありません。リフォーム等で、クロスを剥がした後の石膏ボードに施工する場合は、パテ処理等で表面を平滑にした後、シーラー等の下地処理が必要になります。防水処理などの表面処理がされた石膏ボードに施工した場合、剥がれやすくなる可能性があります。

クロス類（ビニールクロス、紙クロス、布クロスなど）

下地処理なしで施工可能ですが、剥がれかけているところには補強が必要になります。タバコ等で表面が汚れている場合、仕上げ面に汚れが浮いてこないように施工面をよく掃除していただき、シーラー等の下地処理をしてください。クロスを剥がした後の下紙にも施工可能ですが、施工面を平滑にするためにパテ処理が必要になります。下紙の状況によってはシーラー等の下地処理が必要になります。施工面のクロスが古く、糊の接着力が弱まっている場合は、クロスが剥がれてしまうことがありますのでご注意ください。

セメント類（モルタル、コンクリートなど）

下地処理なしで施工可能ですが、仕上げ面に汚れが浮いてこないように施工面をよく掃除していただき、シーラー等の下地処理をしてください。表面の気泡による穴は埋まらないので、穴を埋めたい場合は、パテ処理などで施工面を平滑にしておく必要があります。

- 製品の特性上、漆喰塗りと違い塗装厚が薄いので下地の状況が浮かび上がる傾向があります。
- 下地の汚れがひどい場合、アクが浮いたり、剥がれてきてしまう可能性があります。
- 下地の表面処理によって剥がれてきてしまう場合がありますので、必ず目立たないところで試塗を行ってください。
- 色粉等を追加して色を付ける場合、厚みや下地の吸水差からくる乾燥時間の差で色ムラが発生しやすくなります。

塗布・塗りタイプ 施工マニュアル

用意するもの

- 攪拌用容器（容量 20ℓ以上のバケツ等）
- ハンドミキサー
- 塗り：砂骨材スモールローラー 極細目（砂骨材スモールローラー 極細目『大塚刷毛製造株式会社』を推奨）
- 塗り：刷毛（のぞみ『大塚刷毛製造株式会社』を推奨）
- マスキングテープやビニールなどの養生用品
- 目地・下地処理用のコテ、パテヘラ等

練り方

- ① 攪拌用容器に水 8ℓを用意し、バケツの中に先に水を入れておき、「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」を少しずつ投入しながらハンドミキサーで攪拌します。粉を全て投入し、十分に攪拌した後、追加で 500ml〜1ℓ程の水を材料の状況を見ながら少しずつ投入してください。吹き付け塗装を行う際は、ローラー施工時よりも水を少し多く入れて溶き、吹き付けししやすい硬さに調整してください。

※十分攪拌する前に、水を投入しないで下さい。始めは硬く感じますが攪拌していくうちに水と馴染んで軟らかくなっていきます。追加する水の量は、気候、気温により変化します。ご自分の塗りやすい硬さに調整してください。

- ② ①の工程後、偏りが出ないように再度よく攪拌してください。水と材料を馴染ませるため蓋をして1時間以上置いておきます。
- ③ ②の工程後、もう一度よく攪拌し、塗装をはじめてください。塗り始める前に硬いと感じたら、水を少しずつ足して塗装ししやすい硬さに調整して下さい。この時、水を多く入れすぎると軟らかくなりすぎて塗装しにくくなりますのでご注意ください。
- ④ ②の工程後、翌日まで時間を置くと、水と材料が馴染んでより塗りやすくなります。時間を置いた際には、施工前に材料を再度よく攪拌して使用してください。また、塗装時もこまめに攪拌しながら塗装することで、材料の偏りがなくなり結合不良を防ぐことができます。

【攪拌時の注意点】

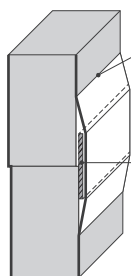
- 保管中や配送中に偏りが出ることが考えられますので、必ず1袋を全て一度に攪拌してください。少量だけ攪拌すると結合不良を起こす可能性があります。
- 「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」は強アルカリ性です。攪拌の際には必ずゴム手袋、マスク、メガネを着用してください。目に入った場合は、すぐに流水でよく洗い流してください。洗い流しても目の違和感が取れない場合は、すぐに病院で治療を受けてください。

下地処理方法

- ① 「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」には、下地のアクや汚れを抑える効果はありません。リフォーム等で既存のクロス等の上に直接施工する場合は、よく掃除をしてから施工してください。既存のクロスが下地の場合、接着剤が弱くなり浮いている部分や、入隅・出隅・クロスの繋ぎ目等が剥がれているものについては、施工をおすすめしません。接着が弱くなっている部分に施工すると、クロスが水分を含み、クロスが剥がれる原因となります。

- ② 目地・ビス穴処理は、一般的なパテ処理材でも可能です。下塗り用パテは「クリンナ MAX」、上塗り用パテは「クリンナノンペーパーパテ」（いずれも『パテメーカー株式会社』）を推奨しています。

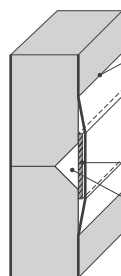
※目地・ビス穴処理にスカラップウォールを使用することもできますが、痩せる性質がある材料のため、手間がかかる点をご了承ください。「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」500g に対して水 300cc 程を加えてヘラやコテなどで練ってください。水は少量ずつ加えてください。始めは硬く感じますが練っていくうちに水と馴染んで軟らかくなっていきます。「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」をパテに使用した場合の硬化開始時間は 60 分程度です。



「スカラップウォール」で目地処理をした端の部分が段にならないようにコテ等でしごく。

ジョイントテープ等

平ボードの場合



「スカラップウォール」で目地処理をした端の部分が段にならないようにコテ等でしごく。

ジョイントテープ等

「スカラップウォール」でVカットの部分を埋める。

V カットボードの場合

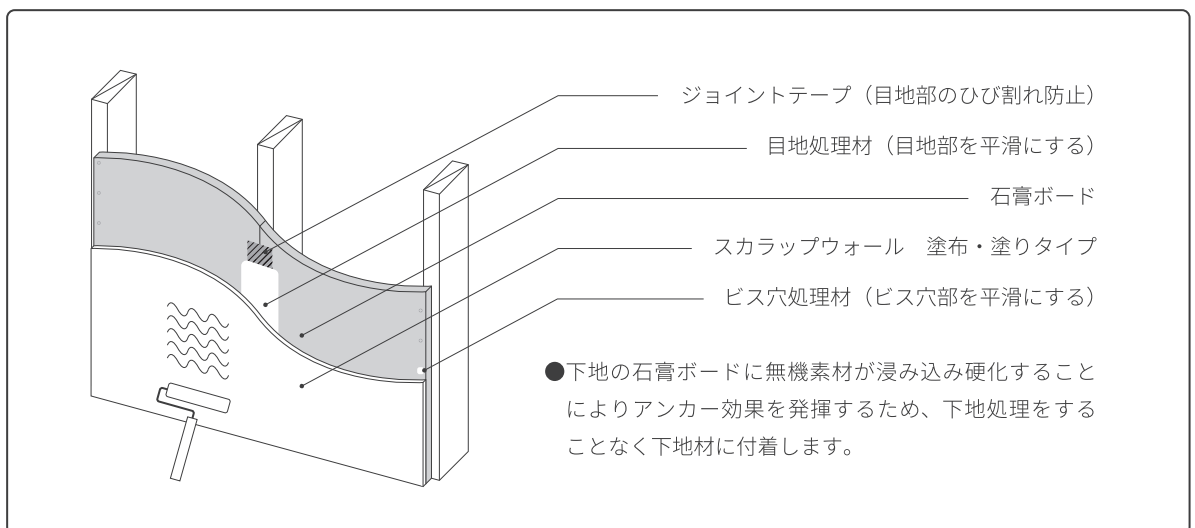
- ③石膏ボードの継ぎ目には割れを防ぐためにジョイントテープや寒冷紗などを貼り、目地・ビス穴を処理してください。
- ※塗り厚が薄いため下地の凹凸はそのまま塗装面に現れます。特に石膏ボードの継ぎ目は平滑に処理をしてください。
- ④③の工程後、サンドペーパーで目地・ビス穴処理時にできた凹凸を処理してできるだけ平滑にしてください。＃120 程度で凹凸を減らし、＃240 程度で仕上げを行ってください。また、サンドペーパーでの処理前に目地・ビス穴処理時にヘラやコテのしごきを十分に行うことにより、サンドペーパーでの仕上げが楽になります。
- ⑤目地・ビス穴処理は最低2回行って下さい。パテ処理材に「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」を使用した場合は、1回目の処理から60～90分程度で2回目の処理が可能になります。
- ※「スカラップウォール塗布・塗りタイプ」をパテ処理材に使用した場合、硬化時にヤセが発生します。硬化後にヤセによる凹凸ができていないか、よく確認してください。凹凸ができてしまった箇所には凹凸が無くなるまで目地処理を行ってください。
- ⑥「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」での目地・ビス穴処理後、60～90分程度で仕上げの「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」の施工が可能です。気温や湿度によって時間が異なりますのでご注意ください。ローラーが滑ったり、引きずったりしない程度に表面が硬くなっていれば仕上げの施工が可能です。

施工方法：ローラー塗装

- ①塗装前に「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」をよく攪拌してください。
- ②入隅部分などがローラーで施工しづらい場合は、予め刷毛（のぞみ『大塚刷毛製造株式会社』）などで施工してください。隅部分に刷毛で先行して施工する場合は、ローラーの目が付くように多めに塗り付けておいてください。
- ③ローラーを軽くボード面にあて、施工面全体に均一に広げるように塗ってください。この時、可能な限り均一に塗り広げた後で、ローラーを軽く転がしてローラーの跡を付けていくと均一に仕上がります。
- ④塗り継ぎ部分が目立たないように、表面が乾き始める前に1面を一度に施工してください。

【塗り重ねる場合】

- 前の施工面が乾燥してから重ね塗りをしてください。（乾燥時間の目安は、施工後約12時間となります。気温・気候によって乾燥時間は変動します。）
- 2回目以降は先に塗った分が水を吸い込んでしまい塗料が伸びにくくなるので、攪拌後の材料にさらに少量の水を加えて軟らかくする、塗装面を霧吹きなどで湿らせておく、ローラーに少し水分を含ませてから塗るなどの対策をとると施工しやすくなり、ドライアウトも防ぐことができます。
- 改修工事などで、既存クロスを剥がした後に塗装し、下地の紙が浮いてきてしまった場合やタッチアップする際は、1日以上間隔を置いて塗布・塗りタイプが乾いてから補修を行ってください。



施工方法：吹き付け塗装

- ①塗装前に「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」をよく攪拌してください。吹き付け塗装を行う際は、ローラー施工時よりも水を少し多く入れて溶き、吹き付けをしやすい硬さに調整してください。
- ②塗装面以外に付着すると強アルカリ性による変色の恐れがあるので、入念に養生をしてください。目に入ると炎症の恐れがあるため、吹き付け作業時には、必ず保護メガネを装着してください。
- ③1回吹きで塗装しようとすると吹きすぎた部分の表面がタレてしまう可能性が高いため、2回以上に分けて吹き付けをしてください。気温や湿度によって変動しますが、2～3時間程経過して表面がある程度乾いてから2回目以降の吹き付けを行ってください。
- ④改修工事などで、既存クロスを剥がした後に塗装し、下地の紙が浮いてきてしまった場合やタッチアップする際は、1日以上間隔を置いて「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」が乾いてから補修を行ってください。

【下地がクロスの場合】

リフォーム等で既存のクロスに塗装する場合も上記の施工方法となります。ビニールクロス、和紙クロス等のほとんどのクロスに直接施工可能です。既存のクロスがひどく汚れていたり、一部剥がれや破れのある箇所がある場合は、清掃・補修を行ってから塗装してください。既存のクロスを剥がしてから塗装する際は、下地処理を入念に行い、塗装面を平滑にしてから塗装してください。

【下地が塗り壁の場合】

漆喰や珪藻土などの塗り壁の上に塗装する場合は、塗り壁が水を吸い込んでしまい塗布・塗りタイプが伸びにくくなるので、攪拌後の材料にさらに少量の水を加えて軟らかくする、塗装面を霧吹きなどで湿らせておく、ローラーに少し水分を含ませてから塗るなどの対策をとると施工しやすくなり、ドライアウトも防ぐことができます。

その他注意事項

- 気温が5℃以下、または凍結の恐れがある場所での施工は避けてください。
- 急激な乾燥は施工不良の原因となりますので、極端な乾燥・高温条件での施工は避けてください。
- 過度の通風や湿度も色ムラやクラックの原因となる場合があります。
- 下地の割れは仕上げのクラックの元になりますので、下地の施工にご注意下さい。下地の状態が悪いと施工できない場合があります。
- 施工直後は、室内にかなりの湿気が放出されます。
- 施工後、翌日には軽く触れても問題ないくらいになりますが、完全に乾くまでには5～7日程かかります。
- ホタテの貝殻が主原料のため、施工面が完全に乾くまでの間は磯の香りがしますが、有害物質の匂いではありませんのでご安心ください。
- ドライアウトが発生しないよう、施工後の急激な乾燥にご注意ください。
- 施工直後でまだ水分を含んでいる状態だと色が濃く見えますが、乾燥すると少し色が薄くなります。
- アルカリ性の材料のため、水分を含んだ状態で木材や木部に付着すると変色の恐れがあります。チリ廻り、木部は養生を行ってください。変色してしまった場合は、クエン酸を水に溶かしたものやお酢など酸性のもので拭いてください。完全には消えませんが、目立たなくなります。乾いた状態で木材等に付着した場合は、ホウキや掃除機などで除去してください。
- 攪拌して時間が経過したものを再度使用する際は、固まっている部分を取り除き、少量の水を加えてよく攪拌してから使用してください。
- 着色したい場合は、現場で色粉をご用意ください。色粉は無機系の顔料の使用を推奨します。
- 「スカラップウォール 塗布・塗りタイプ」は、通常の取扱いにおいてシックハウス対策規制建材の告示対象外製品です。有害性のある物質を添加して施工を行わないようご配慮ください。
- 製造には細心の注意をはらっておりますが、自然素材を主成分に使用している関係上、色ムラ、黒点、クラック、ロットによる色の違いなどが出てくる場合があります。製品の性能や健康に悪影響を及ぼすものではありません。

塗布・塗りタイプ ご使用上の注意事項

予防策

- 危険防止のため、ビニール袋またはゴム製手袋、安全ゴーグルを着用してください。粉じんや飛沫が発生する可能性がある場合は、マスクを装着してください。
- 目に入ると激しく刺激、炎症を起こすことがあります。長時間皮膚と接触した場合、あるいは体質によっては短時間接触しただけでも発疹やかぶれ等の症状を起こす場合があります。
- 取り扱い作業中・乾燥中ともに、換気の良い場所で使用してください。
- 本来の目的以外に使用しないでください。
- 指定材料以外のものとは混合（多液品の混合・希釈等）しないでください。
- 取り扱い後は、洗顔・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 使用済みの容器は、火器・溶接・加熱を避けてください。

対処法

- 皮膚に付着した場合は、微温湯で十分洗い、スキนครリームを塗ってください。
- 目に入った場合は、こすらず流水で十分洗い、医師の治療を受けてください。
- 誤飲した場合は、多量の水で十分うがいをし、医師の治療を受けてください。
- 吸入した場合は、多量の水で十分にうがいをしてください。多量の場合は、直ちに医師の治療を受けてください。

- 未開封：日の当たらない湿気の少ない涼しい場所にて保管してください。
開封後：空気が入らないように袋を密閉し、日の当たらない湿気の少ない涼しい場所にて保管してください。
攪拌後：できるだけ空気に触れないようにビニールなどで落し蓋をしてから蓋を閉めるなどして密閉保管してください。
- 購入後 1 年以内にご使用ください。
- 開封後は、できるだけ早めにご使用ください。
- お子様の手の届かないところに保管してください。
- 気温が 5℃以下、または凍結の恐れがある場所では保管しないでください。
- 未開封のものは、パレット積みにて保管してください。（袋の中身が湿気を吸って固まってしまった物は使用できません。）



危険

アルミ容器への移し替えは絶対に行わないでください。
化学反応により容器が膨張したり破裂することがあります。